

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所
林木育種センター品種開発実施要領
－初期成長に優れた品種－

24 森林林育第 240 号

平成 24 年 12 月 27 日

最終改正：平成 29 年 3 月 30 日（28 森林林育第 111 号）

（目的）

第 1 条 本要領は、国立研究開発法人森林研究・整備機構法（平成 11 年 12 月 22 日法律第 198 号）第 3 条「研究所の目的」で定めるところの林木の優良な種苗の生産及び配布等を行うことを目的とした林木の優良な品種開発にあたり、その円滑で実効的な推進を図ることを目的とする。なお、本要領は、初期成長に優れた品種の開発について、その実施方法を定めるものである。

（対象樹種）

第 2 条 本要領における初期成長に優れた品種の開発対象樹種は、スギ及びヒノキとする。

（品種開発の方法）

第 3 条 本要領における初期成長に優れた品種の開発は、下の各号に定めるものを母集団として、次代検定林等の試験地（以下「試験地」という。）において、特性調査の結果に基づいて行う。

- 一 精英樹選抜育種事業実施要領（昭和 55 年 5 月 31 日付け 55 林野造第 82 号）に定める、精英樹
- 二 一と同等の基準で選ばれた、成長形質及び樹幹形に特に優れていて、病虫害の被害がない個体

（特性調査）

第 4 条 本要領における初期成長に関する特性は、次の各号に定めるものとする。

- 一 5 年次樹高
 - 二 その他林業用種苗として必要な特性
- 2 第 1 項で定める特性の調査は、原則として実験計画法に基づいて設計された試験地に植栽された系統を対象とし、1 系統あたり複数の試験地で複数の個体について行うこととする。

（調査結果の取りまとめ）

第 5 条 申請者は第 4 条の特性の調査結果を、原則として育種区ごとに取りまとめ、樹高について系統ごとのそれぞれの平均値 μ 及び標準偏差 σ を計算し、次の基準により 5 段階の評価を行う。評価値が 4 以上のものを初期成長に優れた品種の評価対象木とする。

評価値	特性値
5	$\mu + 1.5\sigma$ 以上
4	$\mu + 0.5\sigma$ 以上、 $\mu + 1.5\sigma$ 未満
3	$\mu - 0.5\sigma$ 以上、 $\mu + 0.5\sigma$ 未満
2	$\mu - 1.5\sigma$ 以上、 $\mu - 0.5\sigma$ 未満
1	$\mu - 1.5\sigma$ 未満

2 初期成長量に優れた品種の評価対象木について、特性表等の情報から次の各号に示す特性を確認する。

- 一 原則として 20 年次以降の樹高及び胸高直径が 5 段階評価値で 3 以上であること
- 二 幹の曲りや材の剛性に著しい欠点がないこと
- 三 原則としてさし木発根性、種子生産性等の繁殖性が 5 段階評価値で 3 以上であること
- 四 病虫害に脆弱ではないことが認められること
- 五 雄花着花量が多くないこと
- 六 その他特段の欠点のないこと

(優良品種の決定)

第 6 条 申請者は第 4 条と第 5 条に定める特性調査及び調査結果の取りまとめを行い、初期成長に優れた品種の候補木について、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター優良品種・技術評価委員会設置要領（平成 21 年 5 月 13 日付け 21 森林林育第 37 号）に基づいた申請を行い、同委員会によって評価基準を満たしていると評価されたものを優良品種として扱うものとする。

附則（平成 24 年 12 月 27 日 24 森林林育第 240 号）

この要領は、平成 24 年 12 月 27 日から施行する。

新たな科学的知見が得られた場合にはこの要領を変更することができる。

附則（平成 27 年 3 月 24 日 26 森林林育第 126 号）

この要領は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附則（平成 29 年 3 月 30 日 28 森林林育第 111 号）

この要領は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。